

かみかわウィンドシンフォニー
コンサート



2005年5月15日(日)

開場 1:30 開演 2:00

神川町中央公民館ホール

後援 神川町中央公民館

協力 混声合唱団「きりかぶ」

PROGRAM

—第1部—

1. バラの謝肉祭 J・オリヴァドッティ
2. ペルシャの市場にて A・ケテルビー
3. 修道院の庭にて A・ケテルビー
4. NHK 大河ドラマ<新選組!> 服部 隆之
5. フィンランディア J・シベリウス

—第2部—

1. 混声合唱団「きりかぶ」の皆さんによる合唱
野山をわたる風・あわて床屋・草原の別れ
2. イタリアンフェスティバル arr G・オッサー
3. 人生のメリーゴーランド 久石 譲
『ハウルの動く城』より
4. インスタントコンサート arr H・ワルターズ
5. ジャパニーズ・グラフィティ arr 磯崎 敦博
6. マツケンサンバⅡ 宮川 彬良

ごあいさつ かみかわウィンドシンフォニー 団長 木村徹

本日は、わたしたち、かみかわウィンドシンフォニーの演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。わたしたちは、音楽をとおして出来るだけ多くの人と楽しさを分かち合うことを目的に、活動しております。

また今回は、合唱団「きりかぶ」の皆さんのご協力をいただき、吹奏楽と合唱の共演という初めての試みにチャレンジしてみました。最後までごゆっくりとお楽しみ下さい。今後も、町に根ざした音楽活動を続けて行きたいと思っております。みなさまのご指導、ご支援の程宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、今回の演奏会開催にあたり、ご尽力いただきましたすべての方々にお礼申し上げます。

ごあいさつ 混声合唱団 きりかぶ 小原 寛

1999年に合唱大好き!!のオジさんオバさんのグループとしてスタートした「合唱団・きりかぶ」これまで不定期の演奏会をここ神川中央公民館にて開催。はや7年目を迎え、おじいさん、おばあさんも大分増えてきました。ますます充実したパワーで活動を続けています。元気な歌声をお聴き下さい。

演奏曲目解説

—第1部—

1. バラの謝肉祭 (オリヴァドットィ) 謝肉祭とはキリスト教に由来する祭事で40日間の断食を始める前に十分に馬鹿騒ぎをして世俗の楽しみを味わおうという息抜きやリラックスの意味があります。バラの日曜日、バラの月曜日と言われる所以は、昔、法王が金薔薇の薔薇を手にして民衆の前に現れ、40日間の断食期間が近付いてきた事とイエスの苦難とを思い起こさせたという故事によるものです。その時、法王の手にかけていた薔薇にちなんでこの日が薔薇の日曜日と呼ばれることとなったと言われています。重なるバラの花びらからこぼれるハーモニー、謝肉祭の狂乱ぶりを描いたメロディーと軽快なリズムをお楽しみ下さい。

2. 3. ペルシャの市場にて・修道院の庭にて (ケテルビー) ケテルビーは無声映画の華やかな時代、イギリスの大衆的な人気作曲家でした。なかでも「ペルシャの市場にて」や、小鳥の声が聞こえる「修道院の庭にて」などは、現在の日本でも広く愛されている作品です。今回のこの二曲は団員のF・Hの編曲によるもので、合唱を加えた少人数編成の演奏で、いかに響きよく聞こえる楽譜にするか、と言うことで大分苦労したようです。

「ペルシャの市場にて」ペルシャは現在のイラン・イスラム共和国。しかしケテルビーが作曲した1920年はまだペルシャと呼ばれていました。この曲はペルシャの市場の賑わいを幻想的に描写したもので、大筋は、はじめに砂漠の遠くの方に小さく見えるラクダに乗った隊商の一群。やがて彼等の所に人々が集まりほどこしを求め、その様子を合唱がにぎやかに伝えます。「バクシーシ バクシーシ シャア アーラ…」(旦那様、おめくみを…) やがて物憂げな美しいメロディーののってペルシャの王女の出御です。可憐な王女は奇術師や蛇使いの芸を面白そうに眺めます。しばらくすると隊商も王女様も人々もいすこともなく姿を消しあたりは何事もなかったような静けさに包まれます。

「修道院の庭にて」1915年の作品で、これもケテルビーの名高い作品です。花が麗しく咲き乱れみどりの木立の中で小鳥が歌う、古い修道院の静かな庭。礼拝堂からは「キリエ・エレイソン」(主よあわれみ給え)と歌う修道僧の声が聞こえてきます。この曲もそうですが、彼の多くの作品はわずか一日で書き上げられたそうです。

4. NHK 大河ドラマ「新選組！」 音楽は服部隆之氏。ドラマの脚本家三谷幸喜氏の、これまでの数々の作品で音楽を担当して高く評価されており、まさにゴールデンコンビによる作品です。大河史上3度目11年ぶりにテーマ曲に歌詞が起用。テレビでご覧になっている方は、情景を思い浮かべながら、見ていない方はこの音楽のコンセプトである若さと勢いから生まれる高揚感を感じながら聴いていただきたいと思います。

5. フィンランディア (シベリウス) シベリウスがこの曲を書かなければフィンランドという国は存在しなかったというくらい、当時の社会を大きく揺さぶった曲です。

時は今からちょうど100位年前、19世紀も末。当時のロシア皇帝ニコライ2世によりフィンランドは自治権を取り上げられ、民衆はロシア軍の傍若無人な圧力に日々苦しんでいました。この曲は「スオミ」(フィン語でフィンランドのこと)と名付けられ、曲の上演とその上演に対するロシアの弾圧の繰り返しだったといえます。その間、フィンランドの独立運動は収まるどころか一層盛り上がりしていきます。そしてこの曲の中間部にある美しい旋律にはいつの間にか歌詞が付き、「フィンランディア(フィンランド賛歌)」として合い言葉のように歌われました。ヨーロッパ諸国においても「フィンランディア」上演が大成功したばかりか、それによりフィンランド独立運動自体も肯定され、かくしてロシアの立場は徐々に追いつめられていきました。やがて第1次世界大戦が始まり、ロシア革命が起こった1917年、遂にフィンランドは独立を宣言することができたのです。曲はロシアの圧力により苦しむような和音で始まり、木管楽器や弦楽器の祈りの旋律が続きます。そしてロシア軍の銃撃や爆撃を思わせる金管楽器のリズムやうねり、しかしやがて形勢はフィンランド側に好転し、光が射し込んだように軽快な主部に入ります。中間部は木管と弦のコラール。ここが歌詞のついた部分です。最後には全員で先ほどのコラールを高らかに奏して力強く歌い上げます。

一第2部一

1. 混声合唱団「きりかぶ」さんによる合唱 今回、合唱団「きりかぶ」の皆さんのご協力により合唱付きの演奏会を開催することが出来ました。ここで「きりかぶ」の皆さんの歌声をお届けいたします。曲目は「野山をわたる風」「あわて床屋」「草原の別れ」の3曲です。

2. イタリアンフェスティバル(オッサー) 映画のテーマ曲のサビの部分とカンツォーネをつなげた曲で最初は「ベニス夏の日」邦題は「旅情」という映画でヒットしたイギリス映画の主題曲。「ラ ストラダ」(道と言う意味)というイタリア映画の主題曲。最後はカンツォーネの名曲「アネマ エ コーレ」(イタリア民謡で魂と心という意味)全曲通してイタリアの明るい陽射しと古き美しい街、甘く切ない恋心をうたっています。

3. 人生のメリーゴーランド(久石譲) 宮崎駿監督の「ハウルの動く城」のメインテーマです。軽快なワルツのリズムが、レトロな雰囲気漂う曲です。同じ旋律が繰り返し登場しますが明るさの中にも哀愁が漂いあたたかさも人生のような曲。人生はメリーゴーランドの様に楽しい事ばかりではない。メリーゴーランドは遊園地の象徴。止まらない、周りを続ける。永遠に受け継がれる生命の鼓動を表しているのかもしれませんが。

4. インスタントコンサート(ワルターズ) どこかで聞いたことのあるメロディが次々と現れては重なり合ったりして消えていきます。知ってる知ってる!とうなずく曲ばかり。美味しいご馳走を沢山並べたような曲、あなたは何曲あったか分かりましたか?

5. ジャパニーズグラフィティⅣ(弾厚作) NSB(ニューサウンズインプラス)から毎年出されているジャパニーズグラフィティ。日本の名曲をアレンジしたサウンドです。加山雄三の名曲「君といつまでも」「お嫁においで」「サライ」をドレでお聴き下さい。

6. マツケンサンバⅡ(宮川彬良) ご存知の方も多いでしょう、親子揃って音楽家、父宮川泰氏は宇宙戦艦ヤマトを作曲、歌謡曲や映画音楽などを手がけ幅広く活躍中です。彬良氏はNHK教育の「ゆうがたクインテッド」に出演中。マツケンサンバⅡが大ヒットです。現在は作編曲・指揮者として高い評価を得ています。歌の方は普段の松平健さんのイメージからは想像出来ないハテハテラメラメキンキラキンそのスコサは一度見たら忘れられないものになりましたネ。そのギャップの素晴らしさが見る人の心を驚嘆みにし、大ヒットへと導きました。

メンバー紹介

指揮 須賀文王 司会 小原 寛

Piccolo & Flute

吉田ひとみ

Flute

原田 直輝

Clarinet

中澤由香里

坂本 和人

末吉 恵美

Bass Clarinet & Baritone sax

滝沢 隆行

Alto Saxophone

佐々木義孝

篠田 房美

Tenor Saxophone

宮沢 亮介

Horn

萩原 和憲

小川 良美

佐久間 優

Trumpet

中原 堇喜

須賀 渡彦

辺田 文彦

荻野えり子

武智 司

Trombone

倉上 明

鈴木 雄也

高山 貴弘

沢入 潤

坂本 竜太

Euphonium

田島 要一

Tuba

小林 健二

String Bass

小川 倫史

Percussion

木村 徹

鯨井 和也

高和 聖